

(10) 四 国



四国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)

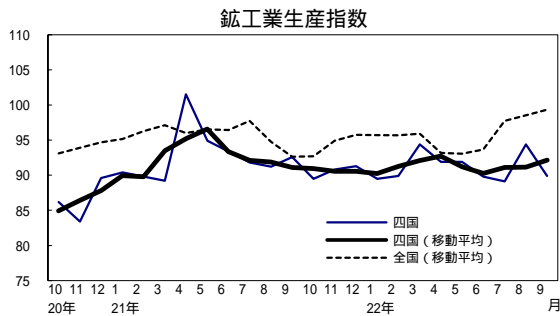
前回からの主要変更点

	前回 (令和4年9月)	今回 (令和4年11月)
景況判断	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しに足踏みがみられる
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

7-9月期の鉱工業生産は、化学・石油石炭製品が増加したものの、電気機械や輸送機械が減少したこと等により、前期比0.1%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
化学・石油石炭	22.1	2.2	12.8	1.3	23.3	10.2
食料品	13.8	0.6	2.5	0.6	0.5	1.3
電気機械	12.8	2.9	12.2	7.6	3.4	0.1
汎用・生産用機械	11.3	0.1	8.7	12.2	9.0	8.3
輸送機械	7.9	1.3	11.9	4.0	16.9	8.0
鉱工業	100.0	0.1	0.1	0.8	5.9	4.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7-9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

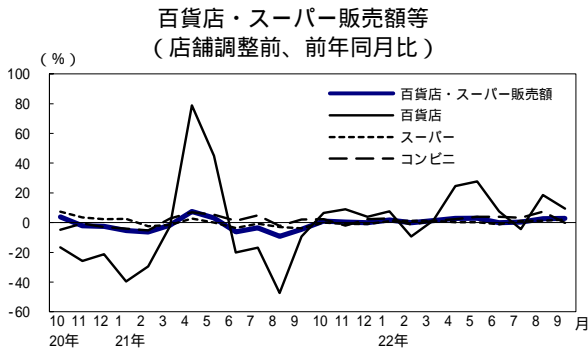
7 - 9月期は前期比0.9%減となった。月別にみると、7月は前月比0.7%減、8月は同0.1%減、9月は同0.7%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比1.9%増となった。月別にみると、7月は前年同月比0.4%増、8月は同2.6%増、9月は同2.8%増となった。

百貨店は、7 - 9月期は前年同期比5.3%増となった。

スーパーは、7 - 9月期は同1.5%増となった。

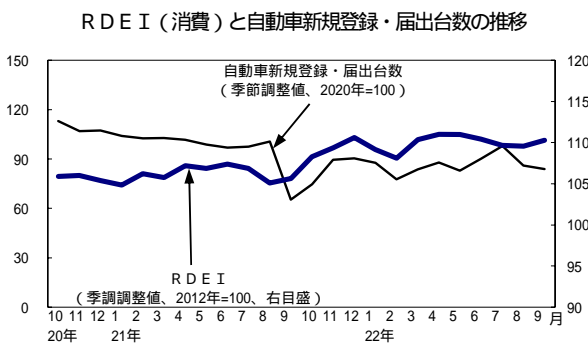


	2022年7-9月	2022年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.9	0.7	0.1	0.7
百貨店・スーパー(*2)	1.9	0.4	2.6	2.8
百貨店(*2)	5.3	4.4	18.5	9.3
スーパー(*2)	1.5	1.3	1.2	2.0
コンビニ(*2)	3.5	3.2	7.4	0.1
乗用車(*3)	4.6	1.5	13.0	31.0
(季節調整値)(*3)	2.6	8.5	12.2	2.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

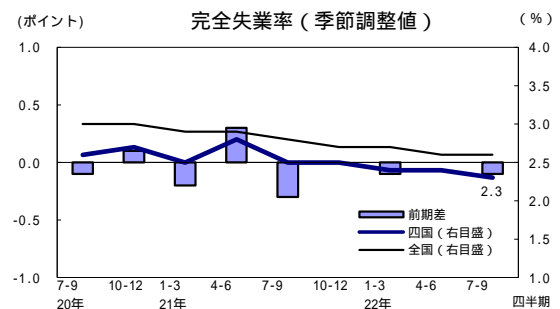
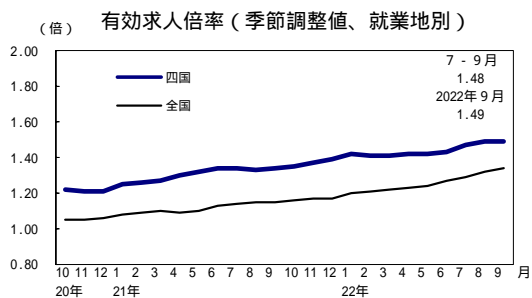
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比(%)



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年10月調査）景気判断理由の概要

10. 四国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□	・売上は回復傾向にあったが、10月からビールが値上げされたことにより徐々に購入数が減少しており、全体としては余り変わらない（その他専門店 [酒]）。
		○	・依然として平日の利用客は少ないものの、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少や全国旅行支援の影響で、週末の利用客は増加傾向にある（タクシー運転手）。
		▲	・新型コロナウイルス感染症の影響が少しずつ薄れてきており、来街客は増加している。しかし、以前と比べると、ごく一部の客を除き、夜の帰宅時間は早まっており、景気は回復していない。電気代や材料費等の経費が上昇してきており、経営は厳しい状況が続いている（商店街）。
	企業 動向 関連	□	・世界的な半導体不足による調達環境の悪化や原材料価格の高騰、円安進行等の課題が山積しており、依然として状況は厳しい（一般機械器具製造業）。
		○	・引き続き個人向け宅配分野が好調であることに加え、新型コロナウイルス変異株対応ワクチンの本格普及や全国旅行支援の影響で経済活動が活発化しつつあることにより、減少傾向にあった企業向け小口積合せ貨物の取扱量が徐々に回復している（輸送業）。
雇用 関連	□	・求人数は一定数あるものの、企業側の人材要件の水準が上がってきておりミスマッチも目立つ（人材派遣会社）。	
	▲	・仕入価格の高騰分を全て販売価格に転嫁することはできないため、利益が減少している（新聞社 [求人広告]）。	
その他の特徴 コメント			◎：全国旅行支援が開始され、現在の予約状況及び旅行商品の販売数が新型コロナウイルス感染症発生前の水準まで回復している（旅行代理店）。 ×：青果物の卸売市場価格は非常に低調に推移している。例年10月は産地の切り替わりで市場入荷量の変動が大きく、価格も入荷量により動きが見られるが、今年は全体的に動きが少ない（農林水産業）。
先行き	家計 動向 関連	□	・新型コロナウイルス感染症に対する行動規制が緩和されつつあるが、冬に向けて光熱費の高騰や物価高の影響が続き、節約意識が高まることから、まだまだ景気回復は期待できない（家電量販店）。
		○	・祝い事や集まり事の予約並びに問合せが増えてきており、新型コロナウイルス感染症への警戒感が以前より和らいできていると感じる（一般小売店 [生花]）。
	企業 動向 関連	□	・最近公共工事の発注が少なく、先行きが不透明である（建設業）。
		▲	・水際対策の緩和によるインバウンド需要の回復や全国旅行支援に伴う国内観光旅行者数の増加等により、宿泊業の宿泊者数や飲食業の来客数も増加傾向にある。また、仕入価格の値上がりや価格転嫁しやすい環境下にある。年末にかけて景気は回復していく（金融業）。 ・新型コロナウイルスの感染状況が収束する見通しは不透明である。ウクライナ情勢の長期化に加え、円安に歯止めが掛からないと思う（化学工業）。
	雇用 関連	▲	・輸送のコスト高騰や円安など、景気が回復する要素がなく、周辺の中小企業からは人材流出も頻出しており、景気は悪化傾向にある（求人情報誌）。
その他の特徴 コメント			□：にわかに新型コロナウイルスの新規感染者数が増加している背景もあって、予断を許さない状況であるが、全国旅行支援もあり、しばらく現状のまま推移するのではないかと感じている（コンビニ）。 ▲：相次ぐ値上げの影響で消費者の節約志向が強まり、クリスマスや年末年始商戦での高額品やぜいたく品の販売量が前年より減少すると予想する（スーパー）。

(D I) 現状・先行き判断D I（四国）の推移（季節調整値）

